

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	愛の家グループホーム札幌川沿 (1F すずらん)	評価実施年月日	H20年8月22日
評価実施構成員氏名	宮沢・田中・高橋・小川・田村・尾方		
記録者氏名	綿谷・宮沢	記録年月日	H20年8月31日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	ホームの理念、ユニットの理念、ホーム独自の理念を作り地域密着型のサービスを確立した上で何度もスタッフ全員で話し合い作り、実現に向けて日々努力しています。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎朝の朝礼時に会社・ホーム・各ユニット理念を全員で唱和し、スタッフ一人、ひとりが意識し日々のケアに生かしています。またユニットの理念はユニット会議の中でも共有し理念の実践に努めています。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	事業所内の見やすい所に掲示したり、運営推進会議や日々のご家族の面会時などご家族や地域の人たちと話し合う機会を作り理解してもらっています。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	ご利用者との散歩中などはもちろんスタッフだけの時でも積極的に挨拶を交わしたり立ち話などしています。また回覧板などもご利用者と訪問したりしてお花やホームの畑で収穫した野菜・果物のブツブツ交換なども日常的に行っています。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域のボランティアの方が開設当初から毎月定期的に来てくれたり、地域の中学生が気軽に立ち寄ってくれています。最近では地域の保育園の園児が先生と一緒に散歩の途中に定期的に立ち寄ってくれており交流ができています。	地域の方たちや回覧板の情報により、地域で行われるイベントやお祭りに参加しています。
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	積極的に地域の研修などに参加し、自己のスキルアップを図りながら高齢者の暮らしについてスタッフ全員で考え話し合っています。	キャラバンメイト養成研修終了スタッフもいるので地域の方や高齢者などにホームのこと、認知症のことを知ってもらえる機会も作っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日々コミュニケーションをとる中でご利用者の不安や不満、意見を受け止め全スタッフに伝わるようユニット内での話し合いが出来る体制作りを行っています。		毎日の申し送りや朝礼の中で全スタッフへ伝え話す場を設けています。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	月に一回のホーム便りやご家族一人、ひとりに個別にもお手紙や電話、または面会に来られた時など積極的にご利用者の様子や体調について伝えています。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	不満や苦情などはなかなか話づらい事と思い、その気持ちに配慮し日頃のコミュニケーションの中から汲み取るよう努めているとともに、玄関前に意見箱を設置し気軽に書いて頂けるようにしています。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	個別に意見を聞いたり、月に一回のユニット会議・リーダー会議にて情報の伝達・共有や意見交換を行っています。		定期的に食事会や飲み会を設けざっくばらんに話が出来る場を設けています。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	ローテーションにより、さまざまな状況に対応出来るような勤務体制を整えています。また管理者を通常業務からはずす事でご利用者の状態の変化に応じて夜間も含めて対応出来る体制にしています。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ご利用者にとって馴染みのスタッフが対応しやむなく異動や離職がある時は、引継ぎの期間を長くご利用者やご家族に不安を与えないよう最善の努力をしています。		月に一日、フロアーチェンジ日を設け全スタッフが各ユニットを知りすべてのご利用者、ご家族と馴染みの関係が構築出来るよう努めています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修は基本的に勤務扱いとして参加させています。又積極的に研修を受ける機会を設け研修報告書を提出し全スタッフに回覧で回したり、ユニット会議で報告し共有しています。</p>	<p>法人内、法人外での研修の参加によりスタッフの気持ちの変化、スキルアップにつながっているため、積極的に参加させていきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>管理者、スタッフ共に研修や勉強会、会議などを通して同業者とのネットワーク作りや交流、情報交換を大切にサービスの質の向上に努めています。</p>	<p>来年には同業者に声をかけての合同事例研究発表会を開催予定。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>休憩時間が確保されており、時間内に終わる仕事を行っている。またスタッフの悩みなど相談出来る環境になっており人間関係を把握するよう努めています。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>事業所内で毎月介護の月刊誌を購入したり研修の機会を増やすなどスタッフの資格習得の支援も行い、その後は職場内で活かせる環境作りに努めています。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ご家族が求めているものを理解しこれまでのご家族の苦労や経緯、ご本人の心身の状態や不安や希望などゆっくり話を聴く様努めています。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>困っていること、不安なことなどすぐに対応出来る事は実行し出来ない事や困難な事は全スタッフで話し合いホームとしてどうする事が望ましいのかを対策を考えています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	アセスメントの際スタッフ同士で情報を収集し、その内容に基づきご本人の様子や話、またご家族の話を伺いながら状況等の確認を行い、支援の提案や相談を繰り返し必要に応じたサービスにつなげるようにしています。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご本人にも出きる限りホームの見学に来て頂き、建物やご利用者、スタッフの雰囲気など感じてもらい納得してから利用してもらうよう努めています。入居してからはご本人の馴染みの道具や家具も持って来て頂き居室に置いています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	生活暦や過去にあった出来事、経験等ご本人やご家族から情報を得て、それを活かしたケアを行っています。普段の会話でも昔の話を聞きスタッフ間でも共有しています。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族面会時に最近の様子をお伝えするとともにご家族からも気軽に相談して頂ける様にスタッフからも積極的にお話し、ご家族と同じ思いで支援出来る様考え実践している。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	面会時に居室で一緒にお食事をして頂いたり、行事の日程を伝え参加して頂いたりする事で、より良い関係の継続に努めています。また面会の少ないご家族には日々の暮らしの様子を手紙や写真、電話等で伝えています。		ご家族も一緒に参加出来る行事や外出など企画も行い共に楽しみ、よい関係を保つ支援をしていきたいです。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人にとって馴染みのご家族、知人、馴染みの場所への外出など個人の生活習慣を尊重して考え支援しています。今年目標として全員を個別ケアとして馴染みの食物を食べに行ったり、馴染みの場所に行ったり実現しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	一緒に外出や行事、レク等を楽しめる時間を作り共有スペースでご利用者同士がコミュニケーションがとれる様ご利用者の様子を伺いながら孤立しない様に配慮しています。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	利用が終了しても、連絡や訪問をさせて頂いたりご家族より相談があった場合はご利用者に一番いい方法を考えさせて頂いています。実際、今現在も利用終了者のご家族に相談のったりアドバイスしています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の様子を見て言葉、表情、行動から真意を探り、ご本人にさりげなく確認したり意思の疎通が困難な方は日々の様子をスタッフ同士で話し情報を共有しまたご家族、関係者からも情報を得よう努めています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居の際ご家族から情報を得てアセスメント(センター方式)を行い、普段の会話の中からも情報を得てスタッフ同士で共有し把握に努めています。入居後もご本人、ご家族からも少しずつお話を聞くよう努めています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	センター方式のアセスメントを活用し、日中から夜間の一日の過ごし方や身体面、精神面、出来る事、出来ない事などご利用者の全体を把握出来る様努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日々のご利用者との関わりの中で思いや意思を聞き、アセスメントを含めスタッフ全員での意見交換やケアカンファレンス、モニタリングを行い介護計画を作成しています。又ユニット会議でも話す機会を設けています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の進行状況や効果を評価するとともに、スタッフ全員でのモニタリングやアセスメントにより客観的にとらえ、ご本人、ご家族からの要望を取り入れ見直しを行っています。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	食事・水分量・排泄・身体状況のチェックやいつもと違う言動やスタッフの気付きをケア日報や介護記録、連絡ノートなどで情報を共有し介護計画に活かしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご本人やご家族の状況に応じて、通院や送迎など柔軟に対応しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ご利用者が安心して暮らせるように、定期的な消防訓練やボランティアの方々によるレクリエーションなど実施しています。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	ご本人の希望や体調に応じて訪問理容サービスや近隣の往診、訪問歯科を利用したり色々な機会を通じて他のサービスを利用したりして情報交換や話し合いもしています。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に参加して頂き、情報交換や協力関係が築かれています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医での医療が受けられるよう、ご家族と協力しながら通院介助など行っています。緊急時は夜間でも往診医と24時間連絡とれる体制であり、連携を図っています。2カ月に1度の往診医との合同勉強会も行っている。</p>		<p>ご利用者やご家族が今以上に安心できる様、かかりつけ医と今後も関係が構築されるよう関わっていききたい。</p>
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>往診医が認知症高齢者に理解が深い医師であり、在宅や他施設なども多く関わっているため、指示やアドバイスなど随時行っています。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>スタッフの中に看護師が常勤しており、日頃の健康管理や状態の変化にもすぐに対応したり、日々の情報も共有出来ています。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院時にはご利用者の状態・情報を医療機関に提供したりスタッフが交代で見舞いに行ったり、直接医師や看護師、ご家族と退院のめどや治療方法などを相談する機会を作り、なるべく早く退院出来るようアピールしています。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>入居時に重度化に伴う確認書を作成し、ご本人やご家族の意向をふまえた上で事業所が最大限に出来る支援方法を話し合っています。</p>		<p>余命宣告されている2階のご利用者1名に対してホーム全体として情報共有し、スタッフの一員として全員で関わっていききたい。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>ご利用者やご家族の意向をふまえ、緊急時は医療機関やご家族と連絡をとれるような体制をとっています。</p>		<p>チームワークケアは今後も日々確認し話し合い統一したケアを実践していききたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>他事業所に移られた場合はアセスメントやケアプランを始めホームでの情報を伝えたりスタッフが機会を作って訪問するなど、環境の変化が少なくなるよう努めています。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>排泄や着替えについては特にご利用者の誇りやプライバシーに気を配り声かけやケアの徹底を図っています。スタッフ会議の中でも話しあったりする事で意識の向上に努めています。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>傍にいてさりげなく話しかけ思いや希望を聞き、分かる様に色々な方法を使って説明し、ご利用者が自ら選択出来る様な場面作りをしています。</p>		<p>今後も「その人らしさ」の現実にご利用者が意思決定し選択したケアを行っていきます。</p>
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>その日、その時のご利用者の思いや気持ちを尊重し、1人ひとりの状態に配慮しながら対応しています。日々ご利用者中心のケアを最大限行っています。(入浴・外出・起床・就寝時間を自由に)</p>		<p>今後も最大限、ご利用者が自由に本人のペースで生活出来るよう支援していきます。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>外出時はおしゃれが出来るようにお化粧したり服やカバンなど、ご本人に選んでもらったり、悩んでいればさりげなくアドバイスをしています。本人の望む美容師さんを選んだり訪問理美容を利用しています。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>下膳や食器拭きを一緒に行ったり、食事はスタッフとご利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事が出来る様な雰囲気作りも大切にしています。又テーブルにホットプレート置き目の前で一緒に調理する事もあります。</p>		<p>今後もテーブルの上で一緒にホットプレートや鍋など楽しむ事を多く取り入れていきます。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	ご利用者の居室の冷蔵庫やご家族から預かった好みの物を自由に飲んだり食べたり出来る様にしています。1人ひとりの好みの物をスタッフが把握しており、希望に沿いご利用者と一緒に買い物に行く機会も作っております。		飲食物も自由に行っている。今後も往診医と病状などを考え相談しながら最大限自由に飲食できるようにしていく。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェックすることでその方の排泄パターンや習慣を把握し、なるべくトイレで排泄が出来る様声かけや支援をしています。排便コントロールを往診医との連携で半年、1人ひとりに取り組んだ結果、便での失敗が激減した。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	時間や日にちを決めておらず、いつでも入浴が出来る事をご利用者に伝えてあります。入浴があまり好きでない方に対しては、チーム全体で声かけや対応の工夫を考え共有し、1人ひとりに合わせた支援を心がけています。自由にした事で入浴拒否が減りました。		今後も最大限に自由に出来るようにして楽しんで入っていただくこと、保清に努めていきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	なるべく日中に活動を促し、生活のリズムを整えるよう努めているが、ご利用者の希望などに考慮しゆっくり休めるように支援しています。場合によってはゆっくりお話ししたり、温かい飲み物でリラックスして頂けるよう支援しています。		今後もご利用者のペースに合わせて自由に休憩して頂けるよう声かけや見守りの支援をしていきます。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	食事作りや掃除、後片付けや買い物などその方の性格や生活歴に配慮した上での役割作りを行い、趣味の囲碁やオセロ、外出やドライブ、散歩などで外の空気にふれる機会を多く取り入れています。外出する機会を増やしている事でご利用者も大変喜ばれること増えました。		今後も外に出る機会を増やしていきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族の協力やご利用者の希望でお金を持たせていたり、外出先では預かっているご本人の財布を渡し支払う機会を作っています。		買い物や外出先では今後もご利用者がお金を支払う場面作りは継続して行っていきたいです。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日は、ご利用者の希望と体調に配慮しながら散歩やドライブ、買い物など日常的に行っています。個別での外出なども随時行っています。		今後も行事ではなくても日々の生活の中で自由にお茶をしに行ったり、散歩、買い物などしていきたいです。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	行きたいという場所などご利用者の思いを聞き取り、実現するための方策をスタッフ全員で検討し支援に繋がっています。外食・外出にはご家族にもお伝えし、一緒に楽しんでいただけるよう支援しています。個別ケアの実施を全員行いました。(競馬・展覧会・配偶者の入っている介護施設へのお見舞い、地下鉄・バスに乗っての外出など)		今後もホームの車を利用するだけでなく、地下鉄やバスの利用などでもして普段できない外出支援も行っていきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	希望がある場合はいつでもご家族や友人に電話や手紙を出しております。入居時にもご家族にご利用者が電話をかける事についてお話し、ご協力していただけるように努めています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	スタッフはいつも笑顔に心がけ、スタッフから話しかけるように努めています。又遠慮なくご利用者とご家族だけでゆっくりと過ごせる時間にも配慮しています。ご家族の面会頻度はまったく減ることがなく、ゆっくり過ごして頂いています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	申し送りやスタッフ会議の時に話し合ったり、ケアの振り返りを行い、スタッフの認識も図るよう努めています。又、外部、内部研修も積極的に参加し理解を深めています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室・玄関に鍵をかけることなく、1階と2階のスタッフ同士が連携を取り、見守りを強化しながら自由な暮らしが出来るよう支援しています。		今後も自由に外出したり、2階へ遊びに行ったり出来るよう日中の施錠はしません

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	スタッフはご利用者と同じ空間で一緒に過ごしたり、記録類を書いたりする事で、さりげなく全員の状況を把握するように努めています。夜間も全体を見通せる場所にて見守り、定期的に入眠状況なども確認するように徹底しております。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	ご利用者の状況に合わせて注意、保管をしており、ケースに応じた対応をしております。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	日頃より転倒や誤薬については対応策や予防策など会議の場などで話し合い共有しております。防火訓練、日々の防火自主点検の実施、ひやりはっとや事故報告をもとに事故事例検討会議の実施も行っております。		今後もリスクマネジメントをスタッフ全員で学び、考え、共有していきたいです。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時マニュアルは目のつく所にあり周知されています。又消防署の協力を得て、救命講習を少人数ずつ受けに行き、救急手当や蘇生についてなどを習得しています。		全員受講したが今後も救命講習は定期的に行っていきたい。内部研修でも急変などについては定期的に行っていく予定となっている。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力にて、避難訓練や消火器の使い方を定期的に行っている。非常時用の非常食も少しずつ確保しています。運営推進会議の中や日々の交流の中で地域の方へ協力依頼をしている。		今後も運営推進会議などで地域の人々への協力呼びかけは継続していきたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	カンファレンス、事故事例検討会で起こりえるリスクについて話し合い、話し合った内容なども含めて、ご家族に定期的に説明するようにしています。		今後もリスクマネジメントをスタッフ全員で行い、ご家族とも日々の面会時やケアプラン説明時などに話していきます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>毎日の健康チェックを行い記録を残すことで情報を共有し体調の変化や様子に変化がある時は状況に応じて受診したり往診医に相談したりしています。</p>	<p>今後も普段の様子と違う場合はすぐに往診医と連携し、早急な対応を心がけていきます。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>服薬に関しては必ず毎時声に出しお互いが確認して誤薬防止に努めており、薬物の整理や保管も行いスタッフで共有しています。薬剤師との連携も図れており、必要に応じ副作用などについても十分説明頂いている。変化時は口頭、記録でも確認し共有できるようにしています。</p>	<p>今後も薬剤師との連携も図り、ご利用者の服薬を安全に行っていききたい。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>起床・朝食時に牛乳やヤクルトなどの乳製品を摂る様働きかけるとともに適度な運動や散歩などで身体を動かすよう支援し、自然排便が出来る様努めています。排便困難時、便秘時は協力医、看護師とも連携を図り早めの下剤調整を行い利用者の負担にならない様配慮しています。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>歯茎のマッサージ、歯磨きやうがいなどの口腔ケアはご利用者の状態に合わせたケアを行い、洗浄は週2回行い、清潔に努めています。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>水分・食事チェックを行う事でスタッフが摂取状況を把握しご家族より元々のご利用者の摂取状況、習慣などを聞き、情報を共有し、その人に合った声かけや促しを行っています。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>毎日、次亜塩素酸での掃除、手洗いやうがいをこまめに行うよう声がけをしたり、食事前のアルコール消毒、ペーパータオルを使用し感染に対する研修なども積極的に参加しスタッフで共有出来るようにしています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	冷蔵庫内の整理を定期的に行い、古い食材がないか無駄なく使用できる工夫をしています。食器やふきんやまな板など漂白、熱湯消毒を行い、シンク、調理器具の清潔に心がけている。買い出し、発注は1～2回分ずつ行い新鮮な食材を購入し使用するよう徹底しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関にはイスを置くことで座って靴がはけるよう安全に配慮しており入り口付近にはベンチを置き、プランターには花を植え、学生や園児などが気軽に利用してくれています。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	太陽の光が多く入る出窓、大きなベランダとなっており季節を感じられ季節に合った壁面装飾を取り入れることで見ても季節感を感じられる様に工夫しており、ご利用者やご家族に喜ばれることが増えています。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにあるソファやテーブルの配置などご利用者の意見を取り入れ、少しでもゆっくりと自分の家のように感じていただけるよう工夫しています。		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時や面会時に本人と家族が相談された使い慣れた家具や食器、アルバムなどを持ってこられ、それぞれのご利用者の生活スタイルに合わせられるよう配慮しています。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないように換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日の掃除時に各居室、共有部分の窓を開け、換気に努めています。温度はご利用者の様子みながら、こまめに窓を開けるだけでなく、衣服の調整なども行っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>高い所に物を置かないことや危険物などないか見直し、安全確保とご利用者の状態に合わせた環境作りに配慮しています。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>塗り絵や歌、パズル、トランプなど昔馴染みの物を行うことで混乱や失敗をしないよう工夫し1人、ひとりの出来ることの把握をスタッフ全員で共有しその方の状況に合わせた暮らしが出来るように努めています。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>庭や玄関にはお花を植え、畑には野菜を植え成長、収穫を楽しみ、草むしりや水遣りを一緒に行っています。玄関前や中庭にベンチを置き、日常的に自由にひなたぼっこが出来るような環境作っています。</p>	

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者</p> <p>利用者の2/3くらい</p> <p>利用者の1/3くらい</p> <p>ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある</p> <p>数日に1回程度ある</p> <p>たまにある</p> <p>ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者</p> <p>利用者の2/3くらい</p> <p>利用者の1/3くらい</p> <p>ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者</p> <p>利用者の2/3くらい</p> <p>利用者の1/3くらい</p> <p>ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者</p> <p>利用者の2/3くらい</p> <p>利用者の1/3くらい</p> <p>ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者</p> <p>利用者の2/3くらい</p> <p>利用者の1/3くらい</p> <p>ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者</p> <p>利用者の2/3くらい</p> <p>利用者の1/3くらい</p> <p>ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族</p> <p>家族の2/3くらい</p> <p>家族の1/3くらい</p> <p>ほとんどできていない</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように</p> <p>数日に1回程度</p> <p>たまに</p> <p>ほとんどない</p>

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>太いが増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

- (日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
- ・ご家族との関係作りを大切にしており、毎日面会に来られるご家族や行事への参加などの声かけを多くコミュニケーションをとっています。
 - ・ご利用者の1人、ひとりと向き合う事も大切に1対1(個別ケア)での外出等にも力を入れ取り組んでいます。
 - ・内部研修の体制が整い定期的に色々な分野の研修を行い、スタッフのスキルアップに努めています。
 - ・事故事例検討会を月に1回行う事で、リスクマネジメントを行っています。
 - ・介護スタッフだけではなく、事務・調理師・看護師などの専門職も在中しています。
 - ・ホーム外の敷地が広く地域との交流スペースとして活用しています。
 - ・1年に1回事例研究発表会を行い、ケアの質の向上に努めています。
 - ・会社全体として今後タクティールケアを行っていきます。・往診医療機関との勉強会でスキルアップや信頼関係の構築に努めています。

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	愛の家グループホーム札幌川沿 (2F はまなす)	評価実施年月日	H20年8月20日
評価実施構成員氏名	松本・佐々木・竹本・佐藤・井浦・山本		
記録者氏名	綿谷・松本	記録年月日	H20年8月31日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	ホームの理念、ユニットの理念を何回も話し合いスタッフ全員で決めました。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎朝の朝礼で会社・ホーム・ユニットの理念の唱和によりスタッフ1人ひとりが意識をして日々のケアに生かしています。又ユニットの会議の中でも共有し振り返りや反省、目標をたてています。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	運営推進会議や日々のご家族の面会時など、家族や地域の人々と話し合う機会を設け理解を呼びかけています。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	ご利用者との散歩中はもちろん、スタッフだけの時も積極的に挨拶を交わしたり回覧板の受け渡しや野菜やお花のブツブツ交換も日常的に行っています。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の中学生が気軽に立ち寄り寄ってくれたり、散歩中の保育園児が先生と一緒に立ち寄り寄ってくれたりとは定期的な訪問により交流が図れています。又地域の行事にも少しずつではあるが参加しています。	地域のイベントだけではなく、学校、保育園の行事などにも参加していきたい。
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	積極的に地域の研修に参加し、自己のスキルアップを図りながら、高齢者の暮らしについて考え話しあっています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		<p>今後も定期的に勉強会、研修などへの参加を積極的に行っていきます。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	話しやすい雰囲気作りに努め、ご利用者の表情や言葉から思いを汲み取る努力をし、少しでも希望に添えるような支援を心がけ実行しています。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	普段の面会には随時報告しており、月に1回のホーム便りやご家族1人ひとりに個別にもお手紙を出して報告しています。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関前に意見箱を設置し、気軽に書いて頂けるよう目に付きやすい所に設置しています。面会時にもご家族から何かないか、直接言って頂けるような働きかけをしています。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	その都度個別に意見を聞き入れたり、月に1回のスタッフ会議、リーダー会議にての情報の伝達や意見交換などしています。		定期的に飲み会などを設けることでコミュニケーションが出来たり話が出来る場を設けている。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	ローテーションにより、さまざま状況に対応できるような勤務体制を整えています。管理者を通常シフトにいれず、ご利用者の状態の変化に応じ、夜間も含め柔軟な対応が出来る体制にしています。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	基本的には各ユニットのスタッフを固定にし、顔馴染みのスタッフが対応にあたっています。やむおえず異動や離職がある場合は引継ぎを出来る限り行い、ご利用者やご家族に不安を与えないよう、最善の努力をしています。		フロアーチェンジ日を設けることで、全スタッフがご利用者やご家族と馴染みの関係になれる様に努めています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	社内外問わず、さまざまな研修に参加出来る様にシフト調整を行い、研修報告書を提出して全てのスタッフに回覧したりユニット会議で報告したりして共有しています。	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	研修や勉強会などを通し、同業者とのネットワーク作りや交流、情報交換を積極的に進めサービスの質の向上に励んでいます。	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	休憩室や休憩時間が確保されており、スタッフも悩みや相談など出来る環境になっています。	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	研修の機会を増やしたり、スタッフの資格習得の支援をしています。	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	事前に面談をさせていただき、心身の状態や不安、希望など話していただける時間を十分にとって理解し受け止める努力をしています。	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	ご家族が求め、望んでいる事を理解し受け止め、ホームとしてどんな事が出来るか事前に話し合っています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人やご家族の思い、状況等を確認し改善に向けた支援の提案、必要に応じたサービスに繋げるようにしています。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご本人も出来る限り、ホームの見学にきていただき雰囲気などを感じてもらい納得してから利用してもらうよう努めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	ユニット理念にも掲げ常に支え合う関係作りに心がけています。日々の生活の上で人生の先輩である事をスタッフが共有しており、普段からご利用者に教えてもらう場面作りにも配慮しています。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族と話し合い不安や要望などを聞き、ご家族と同じ想いで支援出来る方法を考え実践しています。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご本人の状態を見てご家族を行事や外出に誘い、面会の少ない方には手紙や電話などで日々の暮らしを伝えるなど、よりよい関係作りの継続に努めています。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人にとって馴染みのご家族や、地域的にも馴染みの場所への外出や墓参りなど、個人の生活習慣を尊重して支援しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	ティータイムやレク活動などお誘いし、みんなで集まれる時間を作ったり共有スペースで入居者同士のコミュニケーションがとれるような家具の配置を工夫したり、ご利用者が孤立しないように配慮しています。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	利用が終了しても定期的な連絡や訪問をさせていただいたり、ご家族より相談があった場合はご利用者にとって1番いい方法を考えさせていただいています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者の言葉や表情に注意深く耳を傾け、その方の思いや心の内をさりげない会話などで確認しています。又ご家族からも情報を得るようにしています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の面談で時間をかけてご本人とご家族からアセスメントをとり、スタッフで共有し把握出来る様に努めています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ご利用者1人1人の生活リズムを大切に、言動の中から感じとり、ご本人の全体像を把握できるように努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日頃からご本人とご家族から思いや意見を聞き反映させるようにしている。スタッフ同士もモニタリングやカンファレンスを行い、意見交換や情報の共有により介護計画の作成を行っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ご本人やご家族から要望を聞き取り、期間終了前に見直し、状態が変化したときはその都度検討し、見直しています。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	食事や水分量や排泄状況など身体状況のチェックや、いつもと違う言動やスタッフの気づきをケア日報や介護記録、連絡ノートなどで情報を共有し介護計画に生かしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご本人やご家族の状況に応じて、通院や送迎など柔軟に対応しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ご利用者が安心して暮らせるように、定期的な消防訓練や、ボランティアの方々によるレクリエーション等実施しています。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	ご本人の希望に応じて訪問利用サービスや、近隣事業所の温泉保養所を利用したり、色々な機会を通じて他のサービスを利用したり、情報交換や話し合いもしています。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に参加して頂き、情報交換や協力関係が築かれてきています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご利用者やご家族が希望するかかりつけ医となっている。往診医の往診は月2回あり、緊急時は夜間でも24時間電話連絡で指示をいただくなど連携を図っています。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	往診医が認知症高齢者に理解が深い医師であるため、指示や助言をもらっています。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	スタッフの中に看護師が常勤しており、日頃の健康管理や状態の変化にもすぐ対応したり、日々情報の共有もできています。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時にはご利用者の状態や情報を医療機関に提供したり、スタッフが交代で見舞いに行ったり、直接医師や看護師やご家族と退院のめどや治療方法など相談する機会を作り、なるべく早く退院できるようアピールしています。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時に重度化に伴う確認書を作成し、ご本人やご家族の意向をふまえた上で事業所が最大限できる支援方法を話し合っています。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ご利用者やご家族の意向をふまえ、緊急時などはいつでも医療機関やご家族と連絡をとれるような体制をとっています。重度化や終末期に向けた研修に積極的に参加し会議などで報告会を行い共有しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>他事業所に移られた場合は、アセスメントやケアプランを始めホームでの情報を伝えたり、スタッフが機会を作って訪問に行くなど、少しでも環境の変化が少なくなるよう努めています。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>ご利用者の誇りやプライバシーを損ねないような声かけやケアの徹底を図っており、スタッフ会議の中でも話しあったりすることで意識の向上も図っています。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>ご利用者がわかるように色々な方法を使って説明し、スタッフの考えを押し付けるのではなく選択ができるよう、自分で決めてもらうような場面を作っています。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>その時のご利用者の考えや気持ちを尊重し、できるだけ個別で接し、真意をくみとりながら支援しています。</p>		<p>今後、ご利用者中心の生活を心がけ、ケアしていきたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>ご利用者の希望を前もって聞き、本人の望む美容師さんを選んだり訪問理美容を利用したり、着たい服を選択できるように支援したりすることで個性を大切に、スタッフも一緒にお化粧品やマニキュアなども楽しんだりしています。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>畑の収穫を楽しみ、食卓に並べたり盛り付けや下膳を一緒に行っており、食事はスタッフもご利用者と一緒に食べています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	1人1人の好みの物を把握しており、楽しんでもらえるよう希望に添い買っています。おやつや飲み物等はご利用者と一緒に買いに行ったりもしています。飲酒される方は往診医やご家族とも相談しながら、飲酒量もご本人の状態に合わせて飲んで頂いています。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェックすることでその方の排泄パターンや習慣を把握し、なるべくトイレで排泄できるよう声がけや支援をしています。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	いつでも入浴できることをご利用者にも伝え、ポスターでも呼びかけをし、ご利用者の希望する日や時間に合わせた支援をしています。		今後も柔軟に対応し、ご利用者に入浴を楽しんでもらえたり、喜んでもらえるようなケアを行っていきます。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	ご利用者の体調や希望を見極め、休息の声がけや落ち着いて眠れるよう支援しています。又、場合によっては添い寝をしたり、ゆっくりお話ししたり、温かい飲み物でリラックスして頂けるよう支援しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	天気の良い日に近くの公園やホームの庭など外にでる機会を増やしたり、食事作りのお手伝いや買い物や外食などご利用者の希望を重視して支援しています。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族の協力を得てお財布を持ってもらったり、外出先で支払う機会を作ったりしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>	<p>天気の良い日は、ご利用者の希望と体調により散歩やドライブや買い物などを日常的に行っています。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>	<p>外食や外出などご利用者の希望を聞いた上で場所決定をしたり、1度も行ったことのない所など計画して楽しんでもらうなど、ご家族にも声をかけ一緒にでかけたりしたいと思います。</p>		<p>今後も積極的に外出の支援をしていきたいです。</p>
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。</p>	<p>希望がある場合はいつでもご家族や友人に電話や手紙をだしたり、年賀状も毎年書いています。</p>		
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	<p>いつでもきていただけるよう、声かけや雰囲気作りに配慮しています。面会時にはお茶等を出しゆっくりお話する機会を作り、信頼関係を深められるよう努めています。</p>		
(4)安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定制基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>会議や朝礼や申し送り時に話しあったり、お互い確認しあったり、スタッフの共通認識を図っています。</p>		
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>居室や玄関に鍵をかけることなく、1階と2階のスタッフ同士が連携とり、見守りを強化しながら自由な暮らしを支援しています。</p>		<p>今後も日中はカギをかけないケア、出入りが自由になる様に見守りを強化し行っていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	昼夜問わず全体を見通せる場所にてスタッフもご利用者と共に過ごしたり、スタッフ同士声をかけあいながら、全員の状況を把握できるよう努めています。トイレやお風呂ものれんやカーテンの使用などで安全確認が早く出来る様にも工夫しています。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	ご利用者の状況に合わせて注意を促したり、保管したり、ケースに応じた対応をしている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	防火訓練、日々の防火自主点検の実施、ひやりはっとや事故報告書をもとに事故事例検討会議の実施を行い、対応策や予防策などスタッフの共有認識を図っている。		今後も事故事例検討会を行い、リスク管理を全スタッフで行っていききたい。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防署の協力を得て、救命講習を少人数ずつ受けに行き、救急手当てや蘇生についてなどを習得するようにしています。又、救急時対応マニュアルを周知徹底できるよう努めています。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力にて、避難訓練や消火器の使い方を定期的に行っている。非常時用の非常食も少しずつ確保しています。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	起こりえるリスクについては、カンファレンスで話しあった内容なども含めて、家族に定期的に説明するようにしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>毎日健康チェックを行い体調の変化や様子に変化がある時は、状況に応じて受診したり、往診医や薬剤師などと相談したりしています。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>薬情報の整理や保管を行い、スタッフで共有しています。薬の変更時は、口頭でも記録でも確認し、共有できるようにしています。又薬剤師からの情報やアドバイスも必要に応じて行っています。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>水分を多く取ってもらえるよう声がけし、体操や散歩などで身体を動かすよう支援している。又、往診医や看護師とも連携を図り、早めに下剤調整を行い、ご利用者の負担にならないよう配慮しています。</p>	<p>今後も往診医や薬剤師と連携を図り、ご利用者が不快なく快便出来る様努めていきたい。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>歯磨きや義歯洗浄やうがい等の口腔ケアは、ご利用者の状態に合わせたケアを行っています。訪問歯科にも気軽に相談し、必要に応じた口腔ケアなども行っています。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>水分や食事チェックを行うことでスタッフが摂取状況を把握し、家族よりもとものご利用者の摂取量や習慣等を聞き、情報を共有しその人にあった声がけや促しを行っています。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>毎日、次亜塩素酸での掃除や、手洗いやうがいをこまめに行うよう声がけしたり、食事前のアルコール消毒、ペーパータオルを使用し、感染予防に対する研修等も積極的に参加し、スタッフで共有できるようにしています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	食器やふきんやまな板等を漂白し、シンクや調理器具の清潔に心がけている。冷蔵庫内の食材チェック、買出しや発注は1～2日分ずつ行い、新鮮な食材を購入し使用するよう徹底しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	入り口付近にはベンチやテントを置き、プランターには花を植え、学生や園児等が気軽に利用したり訪問してくれています。		今後も畑委員を活用し、花畑や玄関まわりを親しみやすく工夫して作っていきたいです。
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	ボランティアさんで行う季節にあった生花、季節にあった手作りの壁面装飾を取り入れたりなど、生活感や季節感を取り入れています。		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	リビングにあるソファやテーブルの配置等、ご利用者の意見を取り入れ、皆で楽しく過ごせる空間作りに配慮しています。		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	入居時本人と家族が相談された使いなれた家具や食器、アルバムなど持ってこられ、本人の使いやすいよう居心地よく過ごせるよう配慮しています。		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	毎日の掃除の時に各居室や共用部分の窓を開け、新鮮な空気を取り入れている。温度はご利用者の様子を見ながら調節しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>家具の配置を工夫しずり落ち防止や、危険物などがないか見直し、安全確保とご利用者の状態に合わせた環境作りに配慮しています。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>わからないこと、できないことさりげなくお手伝いし、わかることや得意なことなど何ができるか、その人の状況に合わせた環境作りを目指しています。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>畑に野菜を植え成長や収穫を楽しんだり、花を植え水やりなど一緒に行っています。玄関前や中庭にベンチを置き、日常的に自由に日向ぼっこができるような環境を作っています。</p>	

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者</p> <p>利用者の2/3くらい</p> <p>利用者の1/3くらい</p> <p>ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある</p> <p>数日に1回程度ある</p> <p>たまにある</p> <p>ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者</p> <p>利用者の2/3くらい</p> <p>利用者の1/3くらい</p> <p>ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者</p> <p>利用者の2/3くらい</p> <p>利用者の1/3くらい</p> <p>ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者</p> <p>利用者の2/3くらい</p> <p>利用者の1/3くらい</p> <p>ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者</p> <p>利用者の2/3くらい</p> <p>利用者の1/3くらい</p> <p>ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	<p>ほぼ全ての利用者</p> <p>利用者の2/3くらい</p> <p>利用者の1/3くらい</p> <p>ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族</p> <p>家族の2/3くらい</p> <p>家族の1/3くらい</p> <p>ほとんどできていない</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように</p> <p>数日に1回程度</p> <p>たまに</p> <p>ほとんどない</p>

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>太いが増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

- (日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
- ・ご家族との関係作りを大切にしており毎日面会に来られるご家族や行事への参加などの声かけを多くしコミュニケーションをとっています。
 - ・ご利用者の1人、ひとりと向き合う事も大切に1対1(個別ケア)での外出等にも力を入れ取り組んでいます。
 - ・内部研修の体制が整い定期的に色々な分野の研修を行い、スタッフのスキルアップに努めています。
 - ・事故事例検討会を月に1回行う事で、リスクマネジメントを行っています。
 - ・介護スタッフだけではなく、事務・調理師・看護師などの専門職も在中しています。
 - ・ホーム外の敷地が広く地域との交流スペースとして活用しています。
 - ・1年に1回事例研究発表会を行い、ケアの質の向上に努めています。
 - ・会社全体として今後タクティールケアを行っていきます。・往診医療機関との勉強会でスキルアップや信頼関係の構築に努めています。